

学校目標・経営方針 (本校の学校教育目標)	①自立を目指し、社会の中で豊かにたくましく生きていく力を育てる。 ②児童生徒一人一人の能力や個性を最大限に引き出し生かす。 ③確かな学力、豊かな心、健やかな体を育む。
--------------------------	---

山梨県立ふじざくら支援学校校長 手塚 雅仁

本年度の重点目標	1 主体性・意欲:様々な体験活動を通して興味・関心の幅を広げ、主体的で意欲的に生活・行動する力を養う。
	2 人間関係コミュニケーション:教師や友達との関わりを通して、よりよい人間関係を構築するための基盤を培う。
	3 確かな学力:一人一人の状態等に応じたきめ細かい学習指導により、基礎的・基本的な学力を育成する。
	4 豊かな心:自己肯定感を高めると共に、明るく前向きに生き抜く、たくましくしなやかな心を育てる。
	5 健やかな体・健康:体力や運動機能の向上を図ると共に、自ら健康を保持・管理する態度や能力を育てる。
	6 危険回避能力・安全:災害を想定した実践的訓練等を通して、危険回避能力や安全に生活・行動する力を養う。
	7 勤労観・職業観:キャリア教育により勤労観・職業観を養うと共に、社会生活に必要な資質や能力を育てる。
	8 情報活用能力:タブレット端末などのICT機器を学習や生活の中で上手に活用する能力を育てる。

達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	B 概ね達成できた。(6割以上)
	C 不十分である。(4割以上)
	D 達成できなかった。(4割以下)

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自 己 評 価			
本年度の重点目標		年度末評価(1月30日現在)	
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標
1	主体性・意欲 様々な体験活動を通して興味・関心の幅を広げ、主体的で意欲的に生活・行動する力を養う。	①様々な学部行事や体験活動を通して、児童生徒一人一人の興味・関心を喚起し、自ら行動できる力を養う。	【学部】【教務】【地域支援】
		②学習指導要領の内容を踏まえ、児童生徒一人一人の発達段階や生活年齢に応じた主体的・対話的な深い学びの実践に向けたカリキュラム編成に努める。	学校評価アンケート 各行事や体験活動後の事後学習 行事の目標の明確化と行事の編成等 各種お便り等の発行
		③センターの機能を発揮し、校外・校内の児童生徒の主体的で意欲的な行動に向けた相談・支援体制の充実に努める。	
2	人間関係・コミュニケーション 教師や友達との関わりを通して、よりよい人間関係を構築するための基盤を培う。	①交流及び共同学習やPTA行事などを通して、社会参加に向けた様々な人々との関わりの中からよりよい人間関係づくりの基礎を育成する。	【交流教育】【総務】【学部】
		②学校行事や授業を通して、児童生徒が教師や友達、大人との関わりの中から一人一人の発達段階や生活年齢に応じたコミュニケーションスキルを養っていく。	学校評価アンケート 各行事等の児童生徒の意見 交流活動やPTA行事の実施
3	確かな学力 一人一人の状態等に応じたきめ細かい学習指導により、基礎的・基本的な学力を育成する。	①児童生徒の実態把握を図り、学習活動を通して何ができるようになるのか、何を学ぶのか、どのように学ぶのかを意識して、学習の定着を図る。	【研究・研修】【学部】
		②指導と評価の一体化を目指す授業づくりと授業実践を進め、教員間の共通理解を図り、児童生徒一人一人の学力の育成を推進する。	学校評価アンケート 各種研修会や授業反省会の実施 校内研究の実施 外部機関の研修会等の紹介
4	豊かな心 自己肯定感を高めると共に、明るく前向きに生き抜く、たくましくしなやかな心を育てる。	①各学部と連携しながら問題行動の未然防止と対応に努め、いじめアンケートを実施して自己と他者を認める心の育成を図る。	【生徒指導】【学部】【管理職】
		②各学部の教育活動を通じて児童生徒が前向きに取り組むことで自己肯定感を育てる。また、児童生徒会の活動を中心に、特に「学園祭」の成功にむけて前向きに取り組む力を育てていく。	学校評価アンケート いじめアンケート 児童生徒会活動の実施と振り返り 自己観察書への記載
		③児童生徒の豊かな心を育てることを意識した教育活動を推進する。	

学校関係者評価	
実施日(令和6年2月13日)	
評価	意見・要望等
3	・児童生徒は、直接的な経験から学ぶことが多い。学園祭など対面での学校行事が多く実施され、児童生徒がしっかりと授業にかかわり主体的な活動として受け止めている。興味関心の幅を広げ意欲を高めることができた。 ・「教科横断的な視点」と「教科等を合わせた指導」について、その考え方や行事・授業の組み立て方の共通点・相違点を明確にする必要がある。 ・外部専門家からの指導助言を、教師が自身の取り組みに生かすことで専門性は向上する。また、その取組を教員間で共有することも必要である。また、保護者への支援、助言につなげてほしい。活用方法の検討をお願いしたい。特別支援コーディネーターは、センター校としての知識を是非校内へも広げて欲しい。
4	・学校行事における集団活動では、児童生徒が大集団の中で先輩や友達たちと共に活動することを通して、社会性を身につけることができる。また、児生会役員が主体性を発揮できる大事な場でもある。来年度もさらに活動が充実することを期待している。学校間交流や地域交流などでは、学校外の方々との直接交流ができて良かった。また、交流を通してコミュニケーションや人との関わり方が身につけていると評価できる。地域交流の幅を広げて、新しい活動やコミュニティができるようにつなげてほしい。 ・中学部・高等部のコミュニケーション能力は、小学部からの積み重ねと教室内の人間関係の良さを基盤に指導が実践されていた。ICT機器を活用し障害特性に応じたコミュニケーション手段を拡大し能力を高めていくことについて、次年度の課題として今後の取り組みに期待します。
3	・研修や学校研究を通して、専門性や指導力の向上に努め、各学部でPDCAサイクルの実践に取り組まれている。児童生徒ひとりひとりに合った学びができるよう教具に工夫が有り、子供の実態をしっかりと把握した授業が成立している。 ・プリントなどの他にiPad等を活用して学習への意欲につなげほしい。 ・ふじざくら支援学校における教員の専門性とは何かを明確にし、専門性を向上させるための具体的な手立てを示すことも必要なのではないか。
4	・『いじめ』については障害の特性上、その場で対応、解決することが重要で、その点、教員間での連携、注視力ができていると評価できる。 ・児童生徒の自己肯定感を高めるために、成功体験を友達同志や先生と家族と褒め合うようにできている。 ・教員が児童生徒を尊重してかわかることで、児童生徒もお互いを認め、尊重することができていくことを意識していきたい。

自 己 評 価			
		本年度の重点目標	年度末評価(1月30日現在)
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標
5	健やかな体・健康 体力や運動機能の向上を図ると共に、自ら健康を保持・管理する態度や能力を育てる。	①児童生徒の健康の保持増進のために、保健管理の充実と専門家を含めた関係者や保護者との連携を図り、救急体制の周知・徹底を図る。	【保健】【体育】
		②感染症や熱中症予防の啓蒙を図り、体育活動を通して体力や運動機能の向上を推進していく。また、健康増進にむけた活動の機会を提供する。	・学校評価アンケート ・各種マニュアルの逐次改訂 ・救急体制に備えた訓練や研修会の実施 ・水陸陸上や夏季陸上等の実施
6	危険回避能力・安全 災害を想定した実践的訓練等を通して、危険回避能力や安全に生活・行動する力を養う。	①防災教育の視点から児童生徒に向けた防災教育と実践的な訓練を実施する。また、ヘルメットの着用や防災食の備蓄を進めていく。	【防災・環境】【生徒指導】
		②学校が児童生徒にとって安全・安心な場となるために、環境整備とともに学部と連携した安全対策に努める。また、児童生徒の交通安全等の啓発指導を実施する。	・学校評価アンケート ・ひやりハット事例の集積 ・校内安全点検、ハザードマップを活用した確認 ・ヘルメットの日、各種訓練の実施 ・交通安全等の啓発指導(含 自転車、バス、自主通)
7	勤労観・職業観 キャリア教育により勤労観・職業観を養うと共に、社会生活に必要な資質や能力を育てる。	①小・中・高と児童生徒の発達段階に応じたキャリア教育の充実を図り、キャリアパスポートを活用することで、継続的な指導を行っていく。	【進路】
		②生徒や保護者、地域と連携した進路決定を図るために、個々の実態に応じた高等部での実習を進めていく。	・学校評価アンケート ・キャリアパスポートの活用・教育相談等 ・各学部対象の進路説明会の実施 ・実習先からの学校に対する意見等
8	情報活用能力 タブレット端末などのICT機器を学習や生活の中で上手に活用する能力を育てる。	①「ICT活用能力実態チェックシート」を用いて、児童生徒のICT活用能力を高め、日常生活でICT機器に触れる機会を増やす。	【情報・教養】【管理職】
		②教員のICTを活用した授業づくりの推進(一人一実践)と業務軽減にむけたICT機器の活用を促し、ICT支援員の効果的活用を図る(ICT活用の項目を自己観察書に明記させる)。	・学校評価アンケート ・ICT活用能力実態チェックシート ・教職員の一人一実践の提出 ・自己観察書への記載
		③児童生徒の情報活用能力を育てることを意識した教育活動を推進する。	

学校関係者評価	
実施日(令和6年2月13日)	
評価	意見・要望等
4	<p>・日々の体育や活動で運動機能向上できていますと評価できる。また、健康維持管理も徹底できていますと評価できる。</p> <p>・感染症対策や医療的ケアなど現状に対応した規程の見直しや活用しやすい書式の見直しが進められ、教職員間で共有されており良い。また校内救急体制の映像化など、教職員の緊急時の対応力を高めるための工夫もされていて、非常に良い。アプリを使って動画で緊急対応方法や状態を共有するシステムが消防署にあるので検討してほしい。</p> <p>・事故を未然に防ぐためには、ヒヤリハット記録を収集・蓄積し、原因を分析して先生方が共有することが欠かせない。児童生徒の命に直結することもあり、今後も継続していただきたい。KYT(危険予知トレーニング)の導入を検討してはいかがでしょうか。</p>
4	<p>・ヘルメットの整備等防災対策に対する意識の高さが感じられる。防災訓練事後アンケートから出された課題や改善点を踏まえながら、災害がいつ起きても対処できるように、地域と連携した避難訓練に取り組んでほしい。また、外部の防災士などと訓練内容を確認できるようにしてほしい。</p> <p>・障害をもつお子さんと生活している保護者の防災に対する想いを、行政に届けていただけると良いと思う。また、障害児の避難場所について、地域との協議が必要ではないだろうか。</p> <p>・日常の交通安全(バス、自主通)も指導を続けてほしい。</p>
4	<p>・進路学習会、説明会が実施され評価できる。また、子供の実態に合ったキャリア教育の実施で、自己の成長を感じ自己肯定感を養う一面が感じられて好ましい。</p> <p>・保護者への情報提供を行い、理解を深めていただく機会をもつとともに、生徒の適性や実態に合った進路選択ができるよう、今後もしっかり取り組んでいただきたい。そのためには、個々のニーズに合わせた進路の相談や説明を、三者懇談などで直接、進路指導の先生、担任と話し合える機会を検討してほしい。</p> <p>・高等部卒業後の進路については、保護者に対して小学部の段階から、地域の実情を知ってもらい、卒業までに何が必要なのか、課題は何かということを考えてもらえるような取組を進める必要がある。</p> <p>・キャリアパスポートは、作成することが目的ではなく、児童生徒が作成と振り返りを通して自分自身について考えるために活用するものであることをしっかりと押さえて、指導に当たることが必要だと思う。</p>
4	<p>・ICTを活用した学習活動について、成果が出てきていると思う。また、iPadや音声出力コミュニケーション機器(VOCA)の活用など、児童生徒の実態や学習状況に応じた活用ができていていると思う。ICT機器は、活用することが目的ではなく、児童生徒の学びを支援することが目的であることをしっかりと押さえて指導に当たっていただきたい。</p>

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。

(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。